

2016年8月20日(毎月1回20日発行)

4月14日の午後9時26分に起きた最初の地震の時、熊大病院は昨年改定した災害対応マニュアルに沿って約30分後に災害対策本部を設置しました。災害時にまず確認しなければならないのは、病院建物が被災していないかということ、患者さんを避難させる必要があるかということで、今回地震ではその必要がないと判断されました。

これは、病院の主要な建物が免震構造だったことが関係していると思います。入院患者さんがいる棟は免震建物で揺れをほとんど感じませんでしたし、中央診療棟には救急外来も入っていますので、電気や水などのライ

熊本地震から120日 見えてきた医療面の課題

熊本市（最大震度：6 強）

を受け入れましたが、心臓発作を起こした患者さんもいて、緊急で心臓の検査・治療もありました。同16日午前1時半ごろの2回目の大きな揺れの後は、患者さんがかなり増えました。発災から4月下旬まで救急車を約200台受け入れ、救急患者を約600人受け入れています。

が、道路が陥没して通れない。大至急、対応してほしい」という要請がありました。救急車も派遣できます、ヘリを降ろすスルペースもない状況でしたが、軽自動車が通れるほどの細い道を使って大型車両が通れる場所まで患者さんを運んでもらい、なんとか対応しました。重篤な患者さんがいかなかつたのが不幸中の幸いでした。

ほかには、水が出なくなつた透析病院のために県外の医療機関にもお願ひして透析患者さんを受け入れてもらうなどしました。

熊本大 災害 緊急 救助

学医学部 志・総合診 俊志

部附属病院 教授

2012年からドクターヘリを導入していますが、この「飛び道具」は重症患者さんの搬送に大活躍しました。

院第2内科医員（研修医） 1991 同大学院医学研究科博士課程修了、学位
副医学准教授 2012 熊本大学医学部附属病院救急・総合診療部教授

熊本大学医学部附属病
院 救急・総合診療部


Kumamoto University

 Quality Charter
 Kumamoto University

県の災害対策本部。2回目の震度7が起きてから18時間後、4月16日午後7時ごろの様子
(写真提供：筑波教授)

(写真提供：笠岡教授)



熊本大学医学部附属病院

熊本県中央区本荘1丁目1番1号

096·344·2111(代表)

<http://www.kuh.kumamoto-u.ac.jp/>